

- 「湘南台MOP HOME～寺子屋」を訪ねて
- 腰痛・膝痛の一部でも減らしたい
- 地域のつながり・「地域の縁側」って？
- 編集後記
- 2つの「つながる」場所から思うこと
- インフォメーション

かがやけ地球



藤沢市

超少子高齢化社会に度重なる災害や尽きせぬ将来への不安…山積みの困難な現実を映してか、なかなか上向かない世相に、人と人とのつながりを求める声は確実に大きくなってきています。そんな中、今号の「かがやけ地球」は私たちのまち藤沢で動き出している「つながる」場所をつくり育てる2つの取組を取材しました。

「湘南台 MOP HOME～寺子屋」

を訪ねて



子どもを取り巻く状況が変化する中で「子どもの居場所」が問題となり、様々な取組がなされている。藤沢市内で「子どもの居場所づくり」を目的に活動している学生団体MOPが運営している「湘南台 MOP HOME～寺子屋」を訪ねた。

湘南台 MOP HOME～寺子屋の活動拠点は、湘南台駅から徒歩約20分の東勝寺。

慶應義塾大学の学生を中心に5大学の学生20人が集まって月2回、土曜日の午後から夜まで活動が行われている。途中夕飯を挟んで、遊びや勉強、お喋りなど子どもたちは自由に過ごす。宿題や学習の指導、悩み事などの相談もお姉さん、お兄さんのような学生たちだから、子どもたちは気軽に接することができる。この日は、小学校低学年から中学生まで男女20数人が集っていた。

『子どもの居場所をつくり、成長に愛を与えたい』と運営団体代表佐藤彰恵さんが2年生の時に同大学、同学年の李紀慧さんと共同代表で発足。この7月で1周年を迎えた。子どもへの愛情のかけ方をすべて形にしたい。そうした彼女たちの熱い思いが、各地から夕食に使う食材や学習用教材、おもちゃなどの寄付や、東勝寺さんによる場所の提供へとつながったのだろう。MOPのメンバーは子どもたちのために何が出来るのか、日々考えて活動している

という。この活動に共鳴した多くの人々の愛情が届けられているのだ。

夕方5時。本堂を駆け回っていた子どもたちが戻ってきた。一同声を合わせて『いただきます』と食べはじめる。私たちも相伴。この日はハヤシライス。材料のトマトは高知から届いたそうだ。食後はスイカ割りが出ている。どの子の目も輝いていた。ここは自由闊達に振る舞える子どもたちの居場所なのだ。

ホームページにはMy Own Place～成長に愛を～とある。場所に集えば会話が生まれ、触れ合うことで互いを認識し、豊かなコミュニケーションの場が生まれる。大学生たちの膝元で少年少女たちが、お互いの違いを認め合いながら遊び学ぶ時間は、未来の大人社会にどれほど貴重なものとなるだろうか。そして、間もなく実社会へ飛び出す学生たちメンバーにとっても、この経験は宝物になるに違いない。子どもたちの居場所づくりに情熱を注ぐ学生たち。次世代への期待で胸を熱くし、墓碑に黙礼して東勝寺を後にした。

(山口 記)



一同声を合わせていただきます

地域のつながり・「地域の縁側」って？

藤沢市では、住民同士のつながりや支えあいを大切にしながら、人の和を広げ、お互いの暮らしを支えあう仕組みとして、平成24年「縁側モデル事業」を創



設しました。この趣旨に賛同する地域団体(NPO、自治会・町内会や社会福祉協議会など)を藤沢市が支援する形で運営されています。「地域の縁側」は、多様な地域住民が気軽に立ち寄れる交流スペースであるために、3つのタイプ(居場所)があります。

- (1) **基本型**：高齢者、障がい児者、青少年、子どもなどの誰もが気軽に立ち寄れる居場所。
- (2) **特定型**：高齢者の居場所、子育てサロン、障がい者交流サロンなど特定の利用対象者の誰もが自由に集え、交流できる居場所。
- (3) **基幹型**：高齢者などの相談支援、介護予防や孤立予防、生きがいをづくりや多世代交流などの促進を図ることを目的とした、誰もが気軽に立ち寄れる居場所。

現在、藤沢市内には26の「地域の縁側」があります。

今回、湘南大庭地区で地域の縁側を開設している「交流

スペース ほっと舎」を訪ねました。ここでは、2015年7月から特定非営利活動法人ワーカーズ・コレクティブによって運営されている「地域の縁側」です。

こちらの「縁側」は、ビルの一室にありますが、中に入るとここはまさに「ほっと」する雰囲気のお部屋。利用者が作られた刺繍などの手芸品がきれいに飾られ、テーブルや椅子が2、3か所に分かれて配置されています。

代表者の野副さんとご一緒に石井さん、山川さんの女性2人からもお話をうかがいました。現在、「ほっと舎」の理事を務めるおふたりですが、最初はほっと舎の利用者だったとか。石井さんは、藤沢市内の他地区から数年前にここ湘南大庭地区に転居されました。以前住んでいた地域では、



左から「交流スペース ほっと舎」の山川さん、野副さん、石井さん

2つの「つながる」場所から思うこと

ありのままの子どもを受け入れる取組のひとつに、「子ども食堂」がある。空腹や孤食の子どもに手づくりのあたたかい食事を提供するというものだ。地域の人々の協力で設立・運営され、誰でも利用することができる(大人が利用できる場所もある)。

子ども食堂はただ食事ができる場所というだけでなく、家でも学校でもない第三の居場所として機能しているようだ。「食堂」とは言っても、なかにはボランティアスタッフと日常的な会話を楽しんだり宿題

をみてもらったりすることができる場所も。子どもの日常に寄り添うことで育ちを見守る側面がある。その点、今回取材した MOP とも思いを同じくするところがあるだろう。

コミュニケーションのあり方などはそれぞれに違うが、これらの取組が皆すべての子ども達へ向けて開かれているというところに子どもは居心地の良さを見出すのかもしれない。子ども達が「居場所」を求める理由は様々。理由によらずやってくるすべ



「ほっと」する雰囲気ほっと舎

福祉活動などで活躍されていましたが、脳溢血で倒れリハビリをなさっていたそうです。そのとき、地域の縁側である「ほっと舎」にふらりと立ち寄り、現在に至るそう。現在も半身がご不自由であるようですが、長年の地域活動で培われた経験に基づくお話にどんどん引き込まれていきます。もう一方の山川さんは、この地区に長年住んでいましたが、20年前にパートナーが他界され、以降ひとり暮らし。関節の不調もあり、積極的に外出されるのが億劫な時期があったようですが、以前から代表の野副さんと知り合いだったことで「ほっと舎」の存在を知り、訪れてみることに。「ここへ上がってみたら（場所はビルの2階）とっても楽しかったです!」と笑顔で参加したきっかけをお話くださった山川さん。「何かお手伝いすることがあればと思うと、ここへ来るのが楽しみでほっと舎に通う前よりずっと元気になりました」と。

利用者から、運営の中心スタッフへ。お話をうかがう前、地域の縁側事業というのは、地域に精通したスタッフが、利

用者を迎える。あくまでも利用者はお客様、この場でお茶を飲みつつ、おしゃべりするサロン。そんなイメージでしたが、多種多様なキャリアを持つメンバーが集まると、もっと心地の良い居場所へ、と企画実行が進んでいくようです。

この「ほっと舎」は子どもから高齢者、障がいのある方など誰もが立ち寄れる基本型の地域の縁側です。近隣の外国人女性が、慣れない日本での生活に困っているときに子どもを連れてきて、利用者が遊び相手になってあげることもあるそう。

とても活動的な方ばかりが参加する場所なのでは?と思ったとき、代表の野副さんがこう答えてくださいました。「このほっと舎は、3回ぐらい利用された後に、利用登録していただきます」。無理強いせず、気軽に利用してもらいたいという配慮が感じられました。

最後に、「ここに来ている皆さんが、やる気さえあれば障がいがあっても、小さなお子さんがいても、それぞれができることをやってもらう。それを受け止められる場に（ここが）なれば、お互いサポートし合う地域社会ができていくのではないのでしょうか」という石井さんの言葉が印象的でした。
(佐野 記)

交流スペース ほっと舎【基本型】

住所 藤沢市大庭 5348-16 高橋ビル 202

開設日時 月～水・金～日曜日 午前10時～午後4時

連絡先 特定非営利法人ワークーズ・コレクティブほっと舎アルク

電話 0466-54-9681

その他
地域の縁側についての
問い合わせ

地域包括ケアシステム推進室
電話:0466-25-1111 (内線3285)

ての子どもがその輪に入っていくことができる。身近に居場所を見つけにくい子どもにとって、つながるところがあるというのは何より心強いことだろう。

同様に、「地域の縁側」もまた居場所を地域につくりだそうというものだ。行けばそこには誰かがいて、誰でも迎え入れられる。活動をするもしないも当人に委ねられており、思い思いに時を過ごす。まさにご近所さんの縁側のごとく開かれた場所があ

り、準備が整えられ、訪れる人を待っている。

MOPも地域の縁側も、現場である地域からうまれる取組であるというのが興味深い。どちらの歩みも困難を乗り越え、腐心し進む道のりの険しさはいかばかりか。それでも地域にいる誰かのために、社会にいる誰かのために気負わずともふらりと立ち寄ることができる「居場所」をつくろうという取組に、大いに期待。

(鈴木 記)

腰痛・膝痛の少しでも減らしたい



「ふじさわ男女共同参画プラン2020改定版」の「生涯にわたる健康づくり」として一部の関連ではあるが、腰痛・膝痛について、一旦発症したら再発に苦しみその影響で体全体が弱体化、「被介護生活」の早まる姿に着目した。

育児・介護或いは農作業など腰痛・膝痛の要因はいくつもあるが、一般に健康的なスポーツで被介護要因をもたらすのは非常に勿体なく、私の場合柔道を通じ長短習得したことも念頭に、今も体験中のテニス・ゴルフの事例に、個人的見解であるが、触れさせていただきたい。

腰痛について

プレー人口も多いゴルフだが、コーチから教わったことを着実に実践し腕を上げた人が腰痛に悩まされる姿も少なくない。上達までしっかりと積み上げてこられた人なら、始めに腰痛予防を含めた指導を受けていればそれも実践された筈！と、気の毒でもあり残念な思いがある。

球を打つ前の構えなど体全体もよく指導されているものの、“腰でリードして打つ”といった専門的な指導も早い段階で見聞きする。球を打つ際に腰だけでリードしようとした瞬間、柔道にも負けない程の負荷があり腰の痛みも早くに体験するだろうが、柔道程でなくても並行して体づくりをすれば、腰が内部で徐々に傷つき変形さえも・・・という事は減るのではないだろうか。

ゴルフに限らないが、「体づくりもコーチの必須要件」と再確認し、練習時の指導にも反映して

欲しい。一般の熟達者もそれを広く伝えてくれることと思われる。

膝痛について

膝痛も、高齢の方が発症し早期の被介護につながる例をよく見聞きする。テニスを一例とすれば、幸い技術的な基本の中で体全体と共に膝の強化にもなっていることが多い。例えばプレーで走る際に体が極力上下しないようにすることや、膝で態勢を下げるなど、球を正確に打つ技術が膝や周辺の筋肉にとっても適度な鍛錬になっている。

それでも急に止まって打ったり回り込むことも多く、膝にも隠れた疲労が残りやすい。専門的でなく誰もが出来ることとして・・・といってもこれが意外に難しいが「適度に休みを取りながらのプレー」や、例え痛みが無くても帰宅後に少し休むなど、膝の過労を防ぐだけで、テニスも長く続けられ、被介護生活もこの面だけでも遅くなるのではと考えられる。

「ふじさわ男女共同参画プラン2020改定版」の健康づくりでは特に「出産に関わる健康や、高齢者の自立と支援」などが掲げられており、全体として専門医の指導が欠かせないが、通常お医者さんの指導以前に始まる日常のスポーツで若い時代からちょっとした体づくりを心掛けていけば、高齢時の腰痛・膝痛の一部だけでも減らせるのではないだろうか。

(前田 記)

- この季節の湘南は「インスタ映え」するシーンに溢れている！けれども思えばSNSをやっていない・・・(鈴木)
- 子ども大好きな私。子らの命の輝きが大人たちのエネルギー源。何時までも輝いていて。(山口)
- 週一テニスから帰り“腰も膝もサアひと休み!”と思ったが、つい孫を抱いたり遊んだり・・・(前田)
- 先日、藤澤浮世絵館へ。1枚の絵から流行や生活習慣を感じ取れる浮世絵の魅力。「芸術の秋」にしたい。(佐野)



審議会等への女性登用状況について

男女共同参画社会の実現には、政策・方針決定過程への女性の参画の拡大が重要です。「ふじさわ男女共同参画プラン2020改定版」では、「審議会など、市政に対する女性の参画促進」を取り組むべき事業として定めています。今年度の調査結果は、次のとおりです。

調査結果

① 国の分類における審議会等の女性登用比率

- ◆ 目標登用比率 **30.0%以上** (平成32年)
(国の第4次男女共同参画基本計画 成果目標)
- ◆ 平成29年4月1日現在の女性登用比率
 - ・ 審議会等の対象数 60機関 ※1を対象
 - ・ 女性登用比率 **31.1%** ※平成28年(31.9%)比 -0.8ポイント

② 市独自の分類における審議会等の女性登用比率

- ◆ 目標登用比率 **50.0%** (平成32年度)
(ふじさわ男女共同参画プラン2020改定版 成果指標)
- ◆ 平成29年4月1日現在の女性登用比率
 - ・ 審議会等の対象数 265機関 ※2を対象
 - ・ 女性登用比率 **41.5%** ※平成28年(41.2%)比 +0.3ポイント

③ 調査対象

- ① 地方自治法による行政委員会等
(地方自治法第180条の5)
- ② 法律を根拠として設置する附属機関
(地方自治法第202条の3)
- ③ 条例により設置される附属機関
(地方自治法第202条の3) ※1
- ④ 要綱、要領等による協議会等
- ⑤ 上記に該当しない、会議・団体、任意の会議、実行委員会等 ※2

21年目に向けて新たなる旅立ち

レディオ湘南 **はっしん!**

レディオ湘南 FM83.1

かがやけ地球は、市民の編集員さんの企画・運営によって、年4回発行しています。

編集スタッフ 鈴木 悠子・山口 千鶴子
前田 英孝・佐野 美穂子

ご意見・ご感想・今後扱って欲しいテーマなどをお待ちしております!

FAX 0466-24-5928
E-mail fj-jinkendanjyo@city.fujisawa.lg.jp

藤沢の有隣堂《ご案内》 <http://www.yurindo.co.jp/>

藤沢店 \ 0466-26-1411

JR・小田急江ノ島線「藤沢」駅南口直結「フジサワ名店ビル」2・3・4・5階

テラスモール湘南店 \ 0466-38-2121

JR「辻堂」駅北口直結「テラスモール湘南」4階

藤沢本町トリアージュ白旗店 \ 0466-50-7550

小田急江ノ島線「藤沢本町」駅から徒歩5分

- 神奈川・東京・千葉に52店舗 ● 学校・公共施設・法人への商品納入
- オフィス用品の通販 ● オフィス設計・家具 ● 出版事業
- 図書館・地区センターの運営 ● 音楽教室 ● カルチャーセンター



藤沢駅直結!

地域密着“元気”デパート

フジサワ名店ビル

☎ 0120-111-391

営業時間 10:00~21:00

〒251-0055 藤沢市南藤沢 2-1-1

<http://www.fujisawa-meiten.com>



当ビルではショッピングの他に貸ホールを提供しております。フジサワ名店ビル 検索
教室の開催や展示会・講演・販売などに、どうぞお気軽にご利用くださいませ。

医療法人社団 藤順会

藤沢順天医院

神奈川県藤沢市鶴沼橋 1-17-11

Tel.0466-23-3211

人間ドック 定期健康診断

脳ドック 婦人科検診



<http://www.fujisawa-junten.or.jp>

天然ガスがひらく未来



次の世代のこどもたちのために、いま、わたしたちが出来ること…東京ガスは考えています。

天然ガスを使用した、効率的なエネルギーシステムの普及・拡大に努めています。また、環境にやさしい暮らしやエコライフの提唱など、環境コミュニケーション活動を推進しています。

<http://www.tokyo-gas.co.jp/>

